

プレスリリース
2018年12月

次回のフォトキナ開催を、2020年5月に決定

イメージング業界とケルンメッセは、フォトキナ毎年開催に向けた新たな出発時期を決定しました。

2018年に開催されたフォトキナの成功に続き、見本市のコンセプトスポンサーであるドイツ写真産業協会(PIV)とイベント主催者であるケルンメッセは、次回開催日程を、当初予定していた2019年5月から2020年5月に延期したことに同意しました。イメージング業界のすべてのマーケットリーダーが2020年5月27日(水)から5月30日(土)にかけて、再びケルンで一堂に会する事が期待されます。発表された開催サイクルの開始を1年延期するという決定は、すべての参加者にフォトキナへの更なる新しいコンセプト開発の機会と、イメージング業界のグローバルプラットフォームとして展示会のステータスを高めるために出展者と来場者との間で、新しいターゲットグループを開拓する機会を与える事となるでしょう。

ドイツ写真工業会(PIV)会長のライナー・フューレス氏は、次のように述べています。

「フォトキナ2018において、その画期的な技術革新と127カ国からの18万人もの来場者は、私たちの予想を大いに上回りました。その結果、次の開催に向けて目標値を非常に高く設定した為、7ヶ月後の2019年5月に、再び2018年のフォトキナと同様の熱狂的な雰囲気を作り出すことは困難と考えました。ドイツ写真工業会は、この要請に対するケルンメッセの迅速な対応に感謝します。この事は、素晴らしいプロ意識と両者間の信頼に基づく数十年に渡るパートナーシップを特徴づける顧客への対応を表しています。」

ケルンメッセのゲラルド・ベーゼCEOは、「私たちは、最も有力なテクノロジー企業においても、フォトキナ2018で経験したような革新的な強みをわずか7ヵ月という非常にタイトなリードタイムで再び見本市会場にもたらすことは、難しいと理解しています。」と付け加えました。更に、「しかし、まさにこれらの改革は、世界の主要な見本市としてのフォトキナの特徴を形作ります。業界のすべての主要サプライヤー、ならびに世界中の重要なユーザー、小売業者、およびサービスプロバイダーの存在も同様です。今後この絶対条件を満たし、出展者や来場者の期待に応え続ける事が可能であることを確認する為にも、私たちはドイツ写真工業会の要望に柔軟に応じていきます。これによって、今後においても、当社の主力見本市の一つとして、引き続き唯一無二のインパクトを持ち、世間の注目を集める事は確実でしょう。」と述べています。

今年、フォトキナは、モバイル、画像分析、デジタルワークフロー、動画などの革新的な分野からの新規出展者の参加の増加や、来場者への体験提案に対する重点的な取り組み等、新しいコンセプトの提示に成功

しました。特に若いターゲットグループに非常に好評を得た体験提案と製品プレゼンテーションの組み合わせは、2 日間の開催期間短縮にもかかわらず、非常に賑わいを見せたワークショップの数々、そして多数の来場者で賑わうイベントエリアでの壮観なプレゼンテーションによって会場全体を盛況に導きました。その結果、見本市は、従来のメディアに留まらず、Instagram、YouTube、Facebook、Twitterなどのデジタルやソーシャル分野でも、以前にも増してより多く取り上げられました。

スタートアップ企業、投資家、科学者において新しく創設されたイメージングラボが新しいイメージングアプリケーションを発表、議論する事で、同時に業界全体に重要な刺激をもたらす事が証明されました。この事は、確立されたイメージング企業からの多数の画期的な革新と共に、イメージング産業がデジタル世界の未来に向けて自身を位置づけ、そして photokina 2020 を形作るであろう大きな活力のショーケースを、もたらす結果となりました。

お問い合わせ

ケルンメッセ株式会社

TEL: 03-5793-7770

kmjpn@koelnmesse.jp